

2 研究の実際

(2) 問題解決的な学習の授業展開

本研究では、授業展開の中に、書く活動①、話し合い、書く活動②を位置付けた問題解決的な学習を設定し、ねらいとする児童生徒の育成を目指して研究を進めました(図1)。

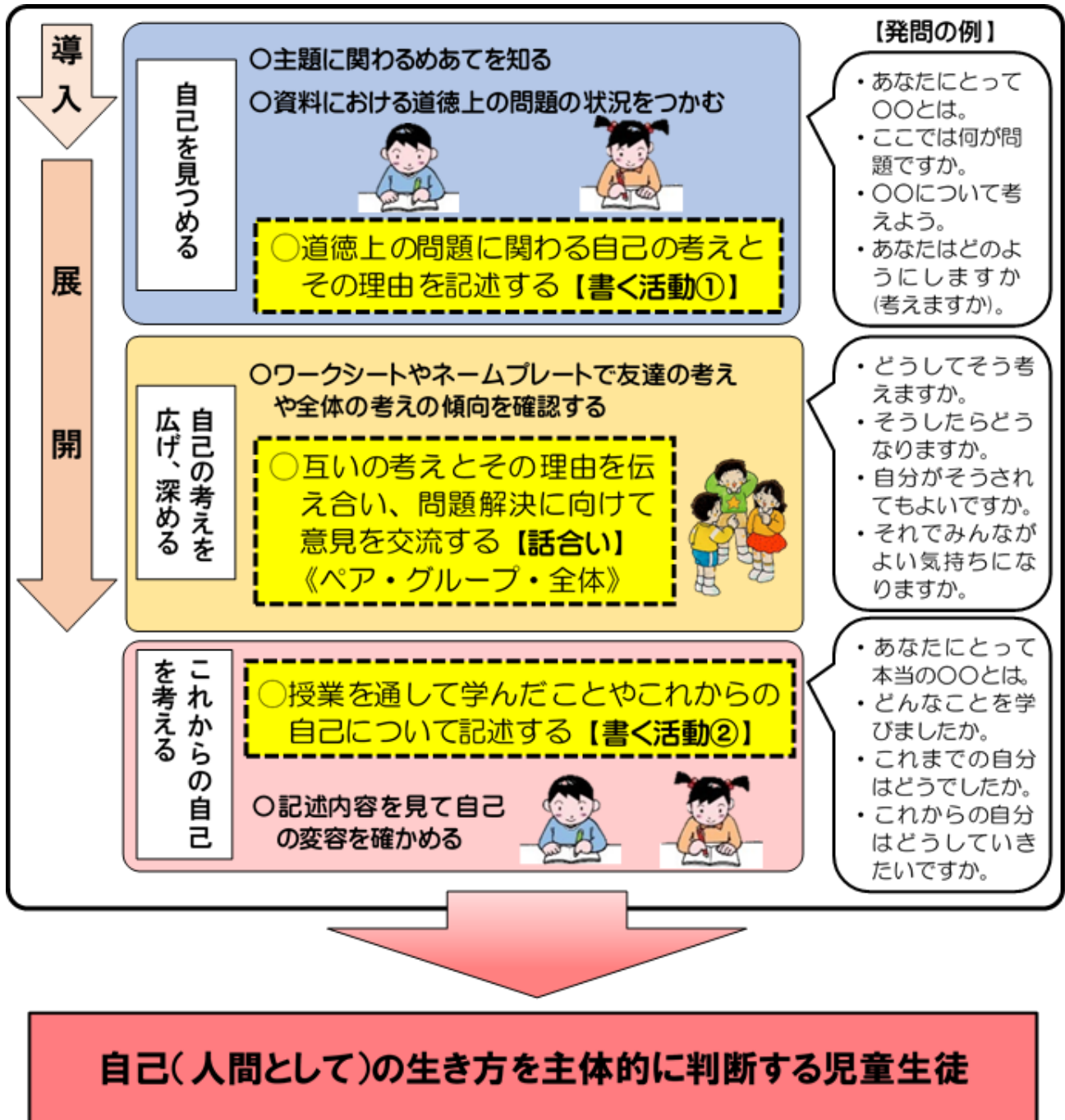


図1 授業展開図



書く活動①で今の自己を見つめ、話し合いで自己の考えを広げたり深めたりし、書く活動②でこれからの自己を考えることをねらいとしました。これらの活動により、自己の考えが変化したり強化したりしたことや自己の言動を判断する視点の広がりを感じることができ、自己の成長を実感することにつながると考えました。

ア 自己を見つめる段階

自己を見つめる

○主題に関わるめあてを知る

○資料における道徳上の問題の状況をつかむ

○道徳上の問題に関わる自己の考えとその理由を記述する【書く活動①】

【発問の例】

- ・あなたにとって〇〇とは。
- ・ここでは何が問題ですか。
- ・〇〇について考えよう。
- ・あなたはどのようにしますか(考えますか)。

【主題に関わる問い】

授業で取り上げる主題についての自己の考えを確かめさせ、授業の中で考えていくべきこと(めあて)を知らせます。

○発問の例

- ・経験や事例から「〇〇でよかったのはどんなときですか」
- ・取り上げる道徳的価値について「あなたにとって〇〇とは」「〇〇について考えよう」
- ・本当の意味や意義について「〇〇とは何だろう」

◆留意点

児童生徒が授業で取り上げる主題について、主体的に考えるように促し、そこに含まれる道徳的諸価値の意味や意義について、授業を通して一貫して探究できるようにします。

【資料の提示】

読み聞かせる、写真やスライドを見せる、事前に読ませる等の方法で資料を提示し、内容の中で「何が問題になっているのか」「何と何で迷っているのか」「なぜそんな気持ちになるのか」などの発問により、道徳上の問題の状況をつかませます。

【問題に関わる問い(書く活動①)】

道徳上の問題に関わる問いを投げ掛け、これまでの自己の経験や体験、その時の感じ方や考え方に照らして、どのように判断したり行動したりするのか、自己の問題として捉えた解決策とその理由を考えさせます。

○発問の例

- ・問題の把握「ここでは何が問題になっていますか」
- ・問題解決に向けて「問題を解決するためにはどうしたらよいですか」
「あなたならどのようにしますか(考えますか)」

◆留意点


自己の問題として捉えた解決策の対立点等を明らかにし、判断の理由を書かせることで、何を大切にしているのか、自己の道徳的価値観を明らかにさせます。

イ 自己の考えを広げ、深める段階

自己の考えを
広げ、深める

○ワークシートやネームプレートで友達の考え
や全体の考えの傾向を確認する

○互いの考えとその理由を伝え合い、問題解決に向けて
意見を交流する【話し合い】
《ペア・グループ・全体》



【発問の例】

- ・ どうしてそう考えますか。
- ・ そうしたらどうなりますか。
- ・ 自分がそうされてもよいですか。
- ・ それでみんながよい気持ちになりますか。

【考えの可視化】

互いのワークシートを見合ったり、ネームプレートを黒板に貼ったりすることで、誰がどのような考えをもっているのか、全体的にはどのような考え方をしているのかを確認させます。自己の考えとは違う考えもあることを知り、その考えの理由を聞いてみたいという思いをもたせて話し合いにつなげるようにします。

【話し合いの指示・補助】 ペアやグループなどの少人数での話し合い

話し合いの前に「考えが違う相手から交流する」「相手の考えやその理由をメモする」「疑問に思ったことは質問する」などの留意点を確認させます。交流がうまくできない児童生徒には相手を見付けて考えを伝え合わせるなど必要に応じて補助をすることで、できるだけ多様な考えに触れさせます。

○発問の例

- ・ 理由の共有「なぜそのように考えるのですか（話し合い）」

◆留意点

自由に意見を出し合い、複数の解決策の理由について考えさせます。話し合いに慣れないうちは、話し方のマニュアルを使うことも考えられます。

【話し合いのまとめ】 全体での話し合い

多様な考えや理由がある中で、よりよい解決策を吟味していくような全体での話し合いにします。少人数での話し合いを基に、全体の話し合いで更に多様な考えに触れさせます。疑問点を互いに質問し合い、具体的に解決策を練り上げます。

○発問の例

- ・ よりよい解決策の検討「どのようにするのがよりよいのか」「互いによいのは」「みんながよいのは」「ずっとよいのは」

◆留意点


出された意見を類型化したり、対立する意見は全体的にまとめたりし、板書で可視化し整理しながら解決策を吟味します。他者の意見を尊重しながら、様々な角度から総合的に考察し、解決策についての自己の考えをより深めさせます。

ウ これからの自己を考える段階

これからの自己
を考える

○授業を通して学んだことやこれからの自己について記述する【書く活動②】

○記述内容を見て自己の変容を確かめる



【発問の例】

- ・あなたにとって本当の〇〇とは。
- ・どんなことを学びましたか。
- ・これまでの自分はどうでしたか。
- ・これからの自分はどうしていきたいですか。

【主題に関わる問い(書く活動②)】

主題に関わる問いを再度投げ掛けるなど、授業を通して学んだことを基に自己の考えを記述させます。また、学んだことをこれからの自己にどのように生かしたいかということについてまとめさせます。

○発問の例

- ・導入と同様の発問「あなたにとって本当の〇〇とは」
- ・考えの変化について「考えで変わったところは」「強くなった思いは」
- ・学んだことについて「どんなことを学びましたか」
- ・これまでの自分について「これまでの自分はどうでしたか」
- ・これからの自分について「これからの自分はどうしていきたいですか」

◆留意点

主題に照らして、これまでの自分に不足していたこと、これからの自分にできることを考えさせることで、よりよく生きていこうとする道徳的実践につなげるようにします。

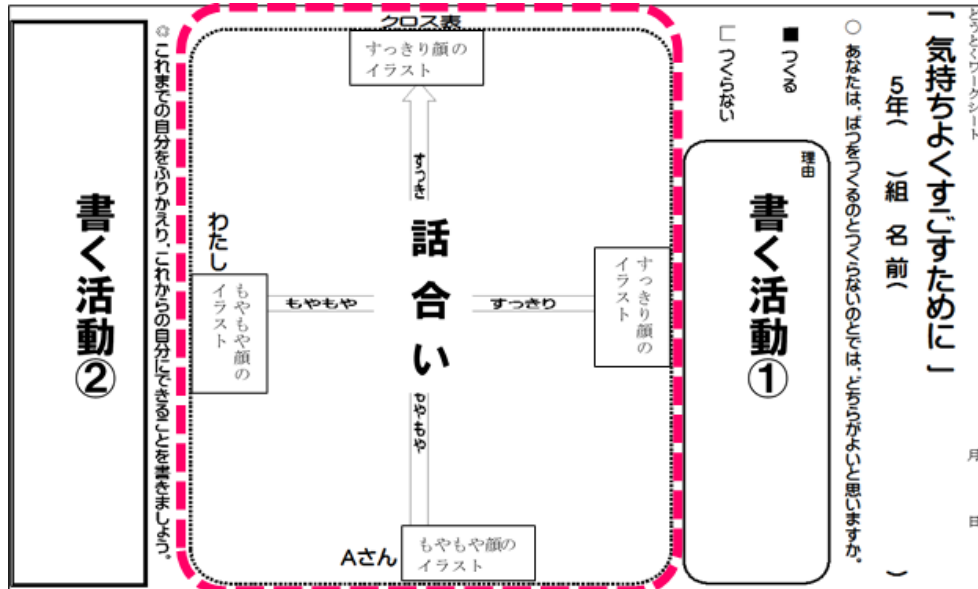
【主題に関わる考えの確かめ】

「書く活動①」や「話し合い」のメモ、「書く活動②」の記述内容を見ながら、主題に照らしたこれまでの自己とこれからの自己への変化を確かめさせます。

エ 考えの可視化を生かしたワークシートの例

① クロス表(資料 2)

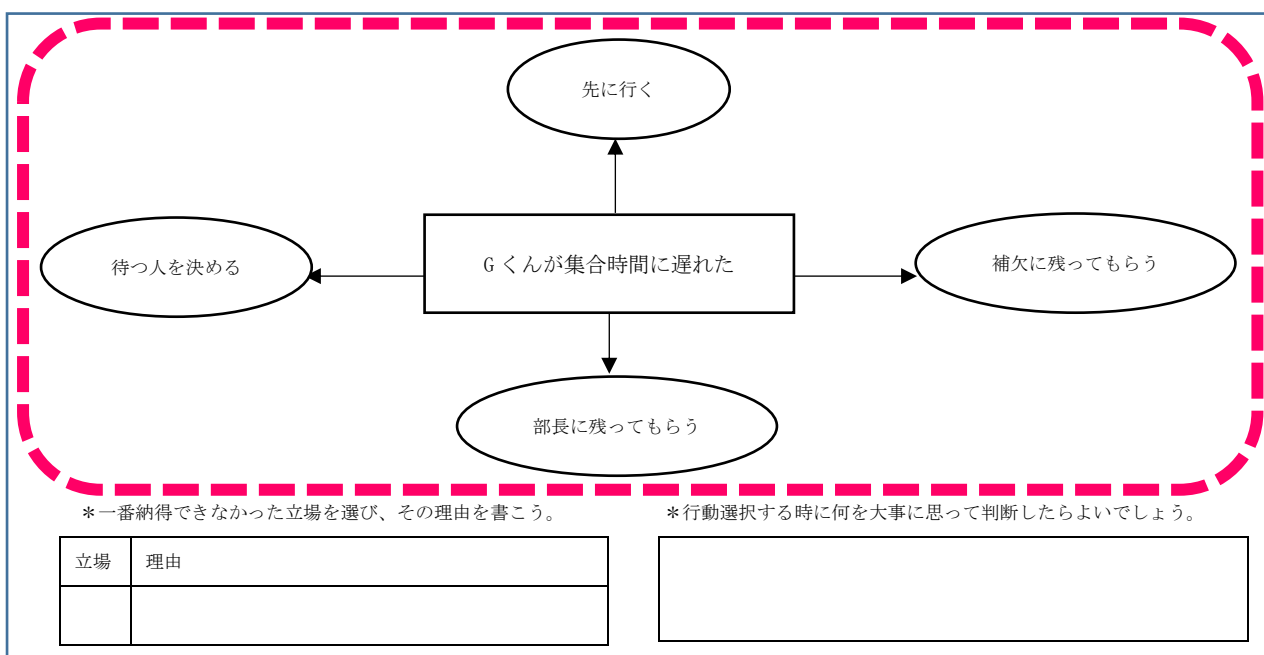
クロス表を用いる利点として、①道徳的価値に関わる問題を 2 つの立場から考えることができる②自己やみんなの立場や判断を可視化でき、話し合う相手を見付けやすい③相手の立場や考えを書き込むことができる④複数の考えを踏まえた自己決定により、考えの強化や変化を捉えやすいの 4 つが考えられます。



資料 1 ワークシートの例①(クロス表)

② ウェビング(資料 2)

ウェビングを用いる利点として、①多面的・多角的に考えを広げたりつなげたりできる②学級全体の意見をワークシートや黒板に可視化できる③友達の考えの加筆が容易である④自己の考えの変容を捉えやすい⑤複数の解決策について吟味できるの 5 つが考えられます。



資料 2 ワークシートの例②(ウェビング)

③ 心のものさし(資料3)

心のものさしを用いる利点として、①道徳的価値に関わる問題に対する心の迷いを表すことができる
②自己やみんなの立場や判断を可視化でき、話し合う相手を見付けやすい③自分の考えを付け加えたり
相手の立場や考えを書き込んだりすることができる④話合いの前後で考えが変わったことが分かり、自
己の考えの強化や変化を捉えやすいの4つが考えられます。

道徳ワークシート

1年()組()号()

友達のためになること

1 あなたがロレンソの友達だったら、3人のうちの考えに賛成(近い)ですか。心のものさしに、○をつけましょう。選んだ理由は、付箋紙にかきましょう。

ニコライ(青)	サバイユ(黄)	アンドレ(赤)

ここに付箋をはろう!

他の人の意見でいいなと思った意見があったら、書こう!

2 あなたは、友達のためにどのように、行動しますか。

☆これまでの自分とこれからの自分の生活について書こう☆

書く活動①

話合い

書く活動②

資料3 ワークシートの例③(心のものさし)

それぞれの利点を生かして、自己の考えや他者の考えをワークシートや板書に書き表すことで、多面的・多角的な思考を促し、よりよい行動を主体的に判断する手掛かりになると考えます。